

第3学年C組 社会科学学習指導案

授業者 石田 智之
研究協力者 外池 智, 加納 隆徳

1 単元名 しらべてくらべよう, わたしたちの秋田市

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

子どもたちは、生活科で町探検を経験してきており、自分たちが興味・関心をもった場所や物について調べた。必ずしも学校付近に在住しているわけではないが、町探検を通して得た知識や新たな気付きから、地域への愛着が生まれてきている。

前単元「学校のまわりを調べよう」では附属学校園周辺の地域を歩き、建物や交通などの視点に着目しながら調べた。この学習では、「? (はてな)」を探すことによって学校の周りの様子に関心を持ち、意欲的に観察・調査をすることができた。また、地図と景観を比べながら、地域の様子を捉える学習活動も経験してきている。しかし、社会科入門期の子どもたちにとって、実際に目にしたものは印象深く捉えることができるが、他地域や地図と比較して特徴を言葉で分かりやすくまとめたり、全体の様子を捉えたりすることは難しい。

(2) 単元について

本単元は、自分たちが住む秋田市のことを調べ、主に秋田市内の土地利用の特徴を捉える学習である。ここでは、秋田市内の各地域についての調べ学習から、その範囲を広げ市内の地域ごとの様子や地形図等の資料を比較して、土地利用の様子や交通の様子等の特徴をまとめることが大切になる。それらをお互いに伝え合い共有していくことで、今まで部分的・断片的だった地域の様子が広がりをもつものとして捉えられる単元である。

秋田市の地域の様子は地域ごとの特徴が顕著であり、「相違点」から地域ごとの特徴はつかみやすいのではないかと考えられる。また、地域間の「共通点」も当然存在し、それらから新たな「問い」や気付きが生まれることも期待できる。本単元は、調べたことを基に、地図や資料を活用して土地利用の様子や交通の様子を読み取る能力を高めながら、秋田市民の一員であることを子どもたちが実感し、秋田市への理解と愛着が深められる単元であるとする。

これらを踏まえ、身近な地域や市の様子を捉えて、場所による違いを考え、表現するという資質・能力を高めることを目指す。

(3) 指導について

研究の重点の一つである「資料提示と発問」については、タブレット端末を用いて子どもたち一人一人が自らの足で集めた画像や資料と、秋田市の地形図等の資料を比較する活動を単元の学習活動の軸とし、そこから問いや考えを見いだす学習活動を行う。本校の子どもたちは、秋田市内の様々な地域から登校しているため、子どもたちにとって身近な地域について調べてきたことを生かして視野を広げられるものと期待される。そのためには、子どもたちの調べる視点を建物、交通、土地の様子と子どもと教師で共有し、身近な地域へのこだわりや誇りをもちながらも秋田市全体の中で比較しながら特徴を捉えられるよう進めたい。

もう一つの重点である「情報交換の場」は、地域ごとの特徴や、前述の視点と視点を比較して生まれた「相違点」「共通点」について、各地域を特徴付けている事象の理由を地図や資料を基に類推して子どもたちなりに話し合う活動を通して、比較したり関連付けたり総合したりして考えることができるようにする。

以上を重点とする学習の中で、複数の資料や視点を比較する中から「相違点」「共通点」を見いだして考えを深めていくことを本単元の「学びのものさし」とし、単元を通して各地域の比較を取り入れながらも市全体を俯瞰的に見ること、様々な資料を重ね合わせて見ていくことを意識できるようにし、根拠をもって秋田市の特徴を捉えられるようにしたい。また、単元の終末には市外に住む小学生に秋田市について発信する活動を取り入れ、単元の終末を見通した目的意識をもてる単元構成の工夫をしていく。

3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

(1) 地形や土地利用、交通の広がりや様子に着目し、秋田市の様子について大まかに理解することができる。また、観察・調査したり、資料を活用したりして必要な情報を集め、調べたことを白地図などにまとめることができる。〈1-1〉

(2) 秋田市の地形や土地利用、交通の広がりなど、地形的条件や社会的条件を関連付けて考え、場所による様子の違いを文章で記述したり地図にまとめたことをもとに説明したりすることができる。〈1-2〉

(3) 秋田市の特色ある地形や土地利用、交通の広がりや様子などに関心を持ち、意欲的に調べようとする。〈7-2, 5, 7, 11〉

4 単元の構想（総時数13時間）

学校のまわりを調べよう
 ・方位や地図の見方を学ぶ ・地域や地図を調べる視点を考える

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価(本校の資質・能力との関連)
1	(1) 地図や写真を見ながら、学習前の段階での自分の「秋田市ものしり度」を確かめる。	・市内の様子を具体的に捉えることができるように地図や写真等を用意する。	・秋田市内の施設や土地の様子について進んで発表しようとする。(ア-5)
2	(2) 調べる視点を確かめ、自分が住む地域の様子について調べる内容や方法を話し合う。	・各地域を比較するために、建物、交通、土地の様子を視点を見付けられるよう「学校のまわり」探検の経験を生かして話し合う活動を設定する。	・それぞれの地域の様子や視点到適した方法で調べようとしている。(ア-7)
学習問題 秋田市の土地の使われ方を調べて、「秋田市しょうかいマップ」を作ろう！			
(課外)	○自分が住む地域の様子を調べる。	・調べる視点を明確にしたシートを用意する。	
3	(3) 秋田市の土地の高さや広がりや地形図を基に調べる。	・地形図に加え、土地の高低がつかみやすい資料や写真を用意する。	・秋田市の土地の高さや広がりやの様子を捉えている。(イ-1)
4 5 6 7 8 本時	(4) 秋田市の土地の使われ方の特徴や理由を資料を比べて考える。 ○土地利用（自然や田畑） ○土地利用（建物） ○交通 ○公共施設 ○古くから残る物 ・地形に合わせた土地利用をしている。 ・土地利用と交通は大きく関係している。 ・市には、公共施設や古くから残る建物がたくさんある。	・土地利用は地形的条件や社会的条件と関わりがあることに気付くことができるように、土地利用の特徴やその理由についての根拠を明らかにして話し合う活動を取り入れる。 ・秋田市全体の様子をつかえるように、地形・土地利用、建物・交通の様子において特色がある資料や写真を用意する。 ・子どもたちが集めた写真や資料も具体的な事例として活用する。	・地形と土地利用の様子を比較して、その特徴を考えている。(イ-2) ・土地利用の様子を調べ、地図に表している。(イ-1) ・自分の生活と市の特徴を関連付けて考えている。(ア-2)
9 10	(5) 調べた資料と土地利用の様子を表した地図を基に、秋田市全域の特色をまとめる。	・調べたことや考えたことを土地利用図と関連付けてまとめられるよう、これまで使った視点を確かめる。	・それぞれの地域における違いを比較し、秋田市全域の特色を捉えている。(イ-2)
11 12 13	(6) これまで学習したことを生かして、「秋田市の紹介マップ」を作る。	・相手意識のあるまとめ方となるよう、市外の小学校へ秋田市について発信する目的意識を確認する。	・秋田市の特徴を具体的にまとめて発信している。(イ-2) (ア-2, 11)

◎本単元で育む主な資質・能力
 都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現する。(イ-2)

秋田市のうつりかわり
 ・土地利用の移り変わりを調べる ・人々の生活の変化を調べる

5 本時の実際（7/13）

(1) ねらい 秋田市の公共施設の分布図に着目し，市の土地利用や交通の様子と比較する活動を通して，秋田市の公共施設の場所や働きについて考えることが出来る。 〈I-2〉

(2) 展開

○「学びのものさし」を働かせて省察したり，自律的に学習を進めたりするための支援

時間	学習活動	教師の支援 評価
10分	① 自分の住む地域の公共施設を紹介し，秋田市全域の地図を使って分布図を作る。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが集めた写真等を活用しながら，補助的に市の公共施設を紹介したり，詳しい分布図を用意したりする。 公共施設の種類や役割にも触れながら分布図に表していく。
3分	② 分布図を基に，学習課題を作る。	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設の数の多さだけでなく，その配置や種類に着目しながら学習問題を一緒に考えていく。
<p>学習問題</p> <p>どんな場所に公共施設はあると言えるのだろうか。</p>		
27分	<p>③ 公共施設の配置の特徴やその理由を考える。</p> <p>〈予想される子どもの反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 市には公共施設がたくさんあって，いろいろな役割がある。 秋田駅の近くや山王に大きな公共施設が集まっている。 人が多く住んでいる場所に公共施設が多いのかな。 あまり人が住んでいない地域にも公共施設はちゃんとあるよ。 人がたくさん住んでいるというところもあるけど，バス路線が集まっているところに大きな公共施設があるよ。 バスで行ける中心部に集まっているのは確かだけど，どの地域にも公共施設があって利用しやすいんじゃないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠を明確にするように，資料や前時までに学習したことを基に考えることを助言する。 ○公共施設の分布や数の特徴を，前時までに扱った住宅地分布が分かる地図，交通の様子分かる資料を活用して「複数の資料を比較する」（学びのものさし）ことから考えられるよう促す。 市民の利用しやすい公共施設の配置について考えられるよう，中心部と周辺部の違いに目を向けることを助言する。 お互いの考えやその根拠となる資料を共有できるように，グループで話し合いながらまとめ，発表する場を設ける。
5分	<p>④ 本時の学習を振り返り，話し合いを通して深まった考えやさらに調べたいことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2つの地図を比べるといろんなことが分かってくる。 市の中心部には市役所や文化会館，アルヴェ，スタジアムなどの大きな建物があり，バス路線も各地とつながっていて利用しやすい。 サービスセンターやコミセン，児童館，運動広場などは市内のどの地域にもあり，近くで利用しやすい場所にある。 秋田市には様々な公共施設があり，市民の暮らしを支えている。 サービスセンターではどんなことができるのか，もっと詳しく知りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学びのものさし」の活用，話し合いで分かったこと，分からなかったことなどを整理し，これから調べていく方向性をまとめる場を設定する。 秋田市の施設についてさらに広げて考えたり，市民としての自覚がもてたりするように，公共施設を利用する市民の立場としての思いも大切にまとめてもらえるよう助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>秋田市には市民の暮らしに関わる様々な公共施設があり，市民が利用しやすい場所に配置されていることに気づき，公共施設とはどんなものかを考えてノートにまとめている。</p> <p style="text-align: right;">〈I-2〉（発言・ノート）</p> </div>